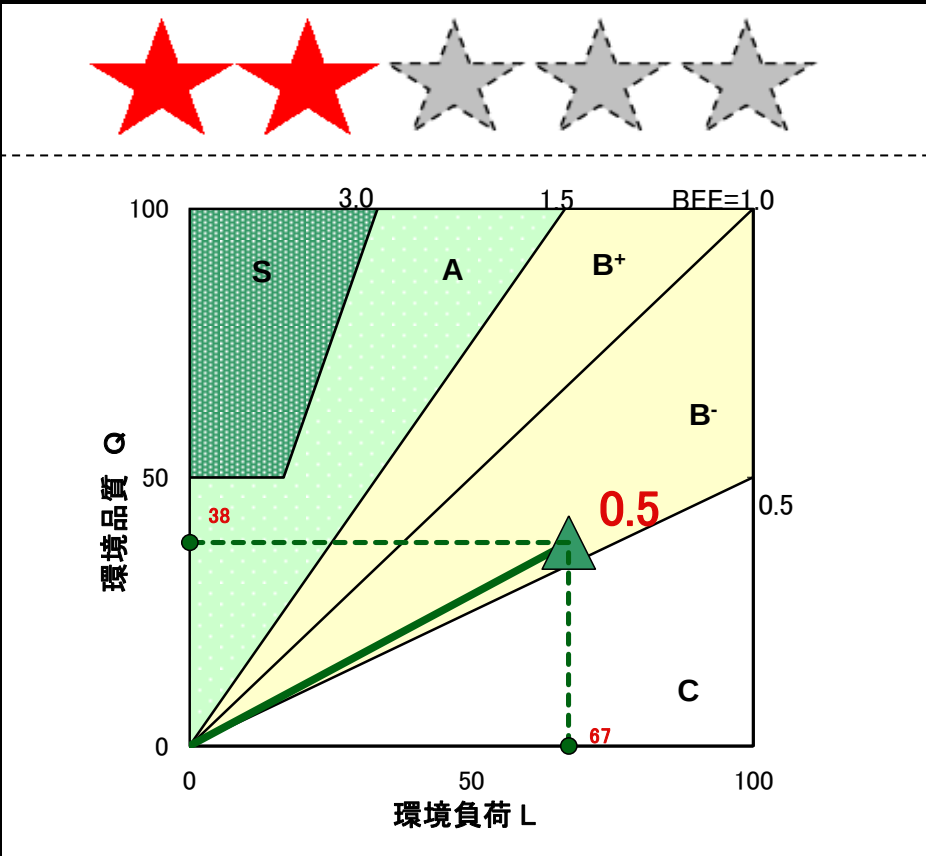


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)熊本春日賃貸マンション	階数	地上8F	
建設地	熊本県熊本市	構造	RC造	
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員	49 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2014年2月 予定	評価の実施日	2013年5月10日	
敷地面積	626 m ²	作成者	牧敦司	
建築面積	422 m ²	確認日	2013年5月1日	
延床面積	2,262 m ²	確認者	牧敦司	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 0.5

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

98%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

	評価点
	61

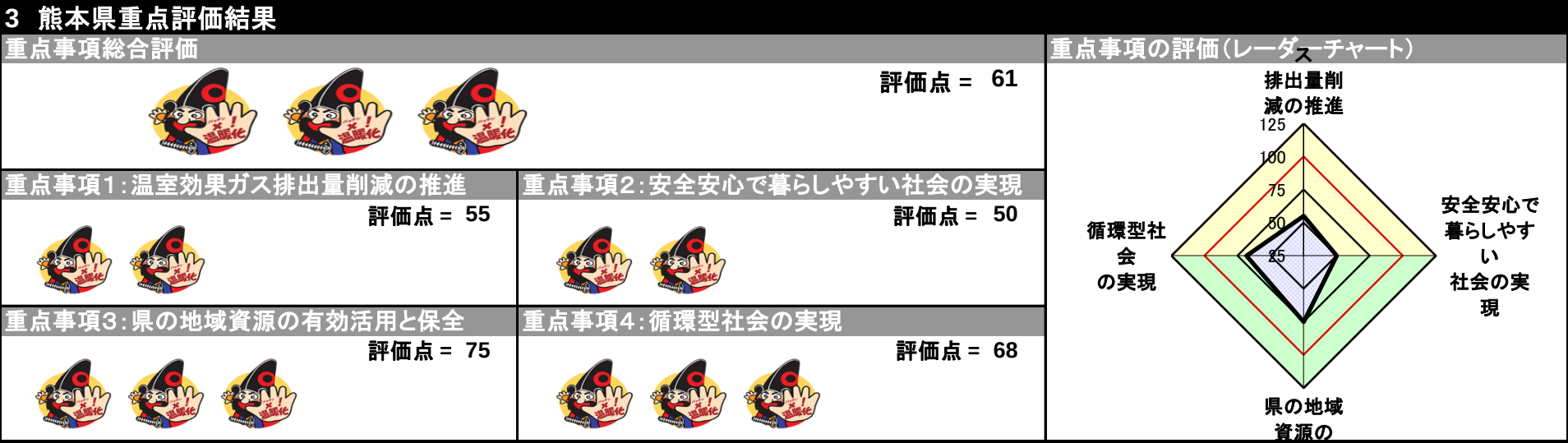
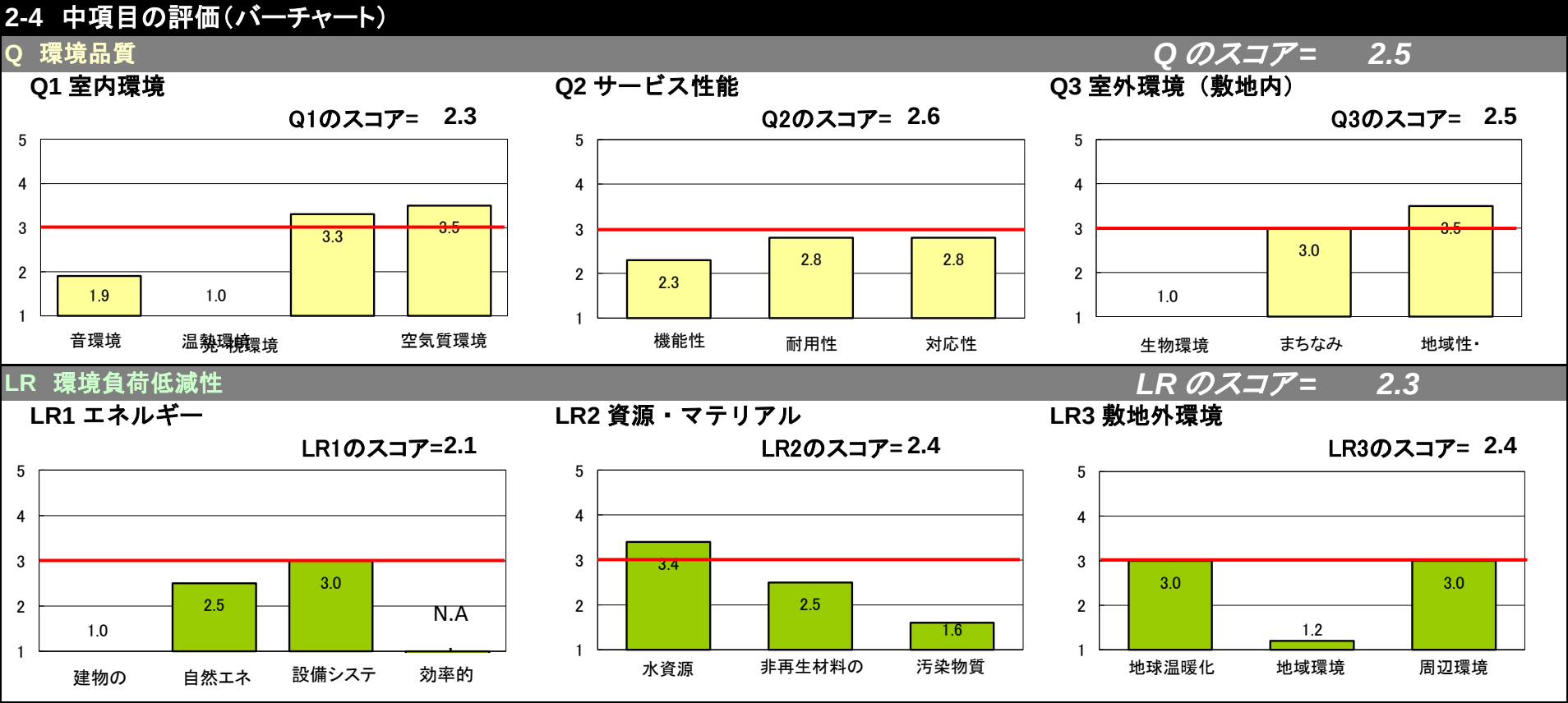
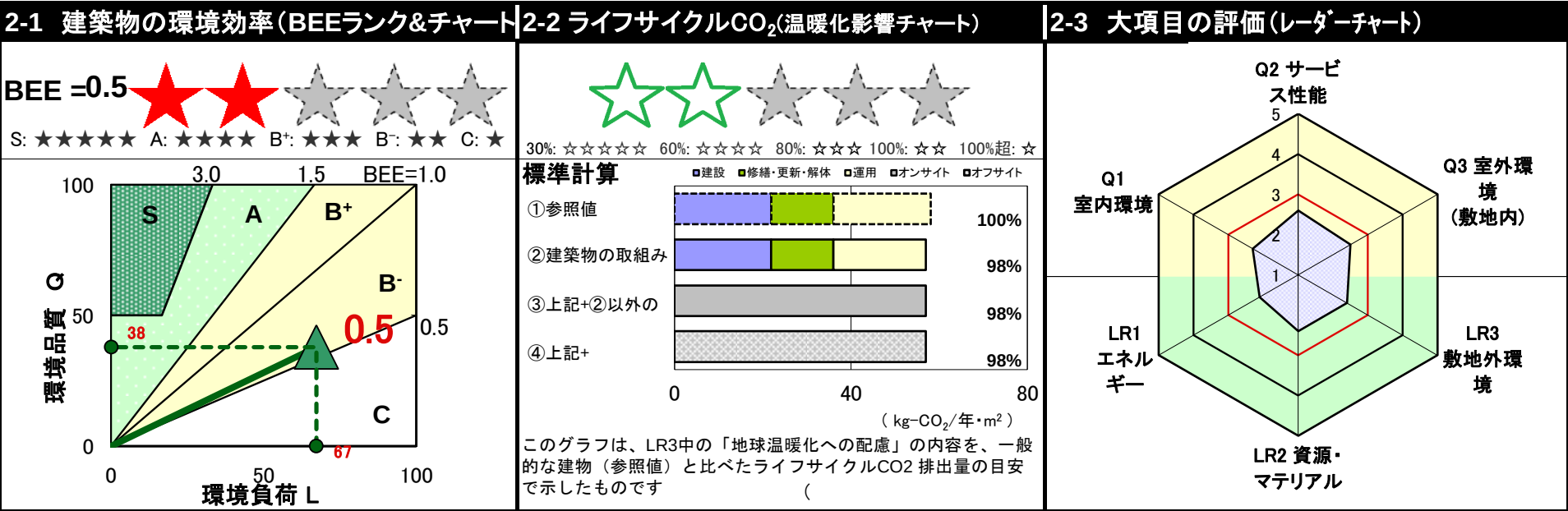
		評価点	■熊本県重点評価基準												
【重点事項1】	温室効果ガス排出量削減の推進	55.0	<table><tr><th>判定値(評価点)</th><th>ランク表示</th></tr><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示														
100点以上															
80点以上100点未満															
60点以上80点未満															
40点以上60点未満															
40点未満															
【重点事項2】	安全安心で暮らしやすい社会の実現	50.0													
【重点事項3】	県の地域資源の有効活用と保全	75.0													
【重点事項4】	循環型社会の実現	68.2													

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)熊本春日賃貸マンション	階数		
建設地	熊本県熊本市	構造		
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間		
建物用途	集合住宅	評価の段階		
竣工年	2014年2月 予定	評価の実施日		
敷地面積	626 m ²	作成者		
建築面積	422 m ²	確認日		
延床面積	2,262 m ²	確認者		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)熊本春日賃貸マンション

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版
■評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
						評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.5
Q1 室内環境							0.40			2.3
1 音環境						2.0	0.15	1.9	1.00	1.9
1.1 騒音						1.0	0.50	2.0	0.50	
1 室内騒音レベル		1.0	1.00			1.0	0.50			
2 設備騒音対策		-	-			3.0	0.50			
1.2 遮音		3.0	0.50			1.9	0.50			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00			3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		-	-			2.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-			1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-			1.0	0.20			
1.3 吸音		-	-			-	-			
2 温熱環境								1.0	0.35	
2.1 室温制御						1.0	0.50	1.0	0.50	
1 室温		1.0	0.63			1.0	0.63			
2 負荷変動・追従制御性		-	-			-	-			
3 外皮性能		1.0	0.38			1.0	0.38			
4 ゾーン別制御性		-	-			-	-			
5 温度・湿度制御		-	-			-	-			
6 個別制御		-	-			-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-			-	-			
8 監視システム		-	-			-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20			1.0	0.20			
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30					
3 光・視環境						2.2	0.25	3.5	1.00	3.3
3.1 昼光利用						4.2	0.30	4.1	0.50	
1 昼光率		5.0	0.60			4.0	0.50			
2 方位別開口		-	-			5.0	0.30			
3 昼光利用設備		3.0	0.40			3.0	0.20			
3.2 グレア対策		1.0	0.30			3.0	0.50			
1 照明器具のグレア		-	-			-	-			
2 昼光制御		1.0	1.00			3.0	1.00			
3 映り込み対策		-	-			-	-			
3.3 照度		3.0	0.15			-	-			
3.4 照明制御		1.0	0.25			-	-			
4 空気質環境						3.4	0.25	3.6	1.00	3.5
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		4.0	1.00			4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-			-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-			-	-			
4 レジオネラ対策		-	-			-	-			
4.2 換気		2.5	0.40			3.0	0.38			
1 換気量		4.0	0.50			4.0	0.33			
2 自然換気性能		-	-			4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50			1.0	0.33			
4 給気計画		-	-			-	-			
4.3 運用管理		-	-	-	-					
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-					
2 喫煙の制御		-	-	-	-					
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.6
1 機能性						2.3	0.40	2.4	1.00	2.3
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	2.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-			-	-			
2 高度情報通信設備対応		-	-			2.0	1.00			
3 バリアフリー計画		1.0	1.00			-	-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30			3.0	0.40			
1 広さ感・景観		-	-			3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		-	-			-	-			
3 内装計画		3.0	1.00			3.0	0.50			
1.3 維持管理		3.5	0.30			-	-			
1 維持管理に配慮した設計		4.0	0.50			-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-					
3 衛生管理業務		-	-	-	-					
2 耐用性・信頼性						2.8	0.31	-	-	2.8
2.1 耐震・免震						3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80			-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20			-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33			-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23			-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		5.0	0.23			-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.09			-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08			-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15			-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23			-	-			

	2.3 適切な更新			-	-	-	-	
	2.4 信頼性			1.4	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		1.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		1.0	0.20	-	-	
	3 対応性・更新性			2.8	0.29	2.9	1.00	2.8
	3.1 空間のゆとり			-	-	2.8	0.50	
	1	階高のゆとり		-	-	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ		-	-	1.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			2.8	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性		2.0	0.17	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	-	3.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上		4.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	2.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	-	2.1
1 建物の熱負荷抑制			1.0	0.40	-	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			2.5	0.20	-	-	-	2.5
	2.1	自然エネルギーの直接利用		2.0	0.50	-	-	
	2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化			3.0	0.40	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		#VALUE!	5.0				
	集合住宅の評価			3.0				
4 効率的運用			-	-	-	-	-	-
	4.1	モニタリング		-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	-	2.4
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	-	3.4
	1.1	節水		4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.63	-	-	-	2.5
	2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			1.6	0.22	-	-	-	1.6
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			1.0	0.68	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		1.0	1.00	-	-	
	3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	-	2.4
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			1.2	0.33	-	-	-	1.2
	2.1	大気汚染防止		1.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善		1.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	3	交通負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

熊本駅西口に位置することから、駅舎のスケールと住宅地のスケールに双方呼応するよう配慮した。住宅地側は凸凹のある平面形状とし、マンションのボリュームが大きくなりすぎないように工夫している。新幹線側については、駅舎のスケールと調和を計るため、2層分を基本としたグリッドスクリーンを計画している。また、色調は熊本市の景観条例に適合するよう白からベージュを基本としたカラースキームとしている。

Q1 室内環境

室内環境の快適性を高める位置に開口を設け、長い時間太陽光のみでの生活ができるよう配慮した。また、室内を構成する材料については可能な限りF☆☆☆☆材料を使用し、室内環境の向上を計っている。

Q2 サービス性能

外壁をタイル貼りとし、一部吹付タイルではあるが更新期間の長い材料を使用している。また、設備配管を合理的に計画することで、更新しやすい計画としている。

Q3 室外環境（敷地内）

効果的な位置に必要な限り緑化を図り、住民だけではなく近隣住民にも憩いとなるよう計画している。

LR1 エネルギー

LED照明を採用することで、省エネルギー性能に配慮した計画としている。また、可能な位置のバルコニーは奥行きのある計画とし、夏期の日射遮蔽が高効率となるよう配慮している。

LR2 資源・マテリアル

コンクリート躯体と仕上げ材を分別しやすい構成とし、リサイクル資源の有効活用に配慮している。

LR3 敷地外環境

敷地緑化を行い周辺住民への環境向上に配慮した。ゴミ置き場をコンクリートでつくり施錠をきちんと行うことで、悪臭が漏れないよう配慮するとともに、不法投棄の防止を目指した。

その他

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)熊本春日賃貸マンション

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		60.6
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				55	0.40	22.00
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.15			
Q1-3.1.3	屋光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	屋光制御	1.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	1.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	2.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				50	0.20	10.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				68.2	0.20	13.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数